

『関羽―神になった「三国志」の英雄―』 渡邊義浩著 筑摩書房 (282 力) 世界各地の関帝廟^{かんていびやう}で祀られている関羽。どのように「商売の神さま」となったかを歴史を追いながら説明されている。	『関羽伝』 今泉恂之介著 新潮社 (923.5) 『三国志演義』を中心に伝説や史実で関羽の生涯を紹介。ゆかりの地の訪問など、中国各地での人氣や伝承を知ることができる。	『三国志―日中文化交流協定締結40周年記念』 東京国立博物館[ほか]企画・編集 美術出版 (222.043) 2019 年国立博物館展覧会図録。最新の出土品資料も加わり、真実により迫った三国志の世界が見えてくる。	『三国志―演義から正史、そして史実へ―』 渡邊義浩著 中央公論新社 (222.043) 日本と中国での相違、『演義』の毛宗崗本・弘治本・嘉靖本^{もうそうこう こうち かせい りたくご}・李卓吾本の違い、そして史実について知ることができる。	かんう そうそう 関羽と曹操の本 今年は関羽と曹操の没後 1800 年。 2 人が活躍した三国志（西暦 180 年頃～280 年頃、中国統一を目指していた時代をまとめた書）について、ゲームで知っている方も、昔読んだという方も、この機会に読み比べてみませんか。 多摩市立図書館 () は請求記号です
『「三国志」漢詩紀行』 八木章好著 集英社 (921.4) 中国の詩人の心を捉えた三国志は多くの漢詩が作られている。曹操の「短歌行」^{たんかこう}などを携えて歴史舞台を訪ねる。	『三国志の真実』 洋泉社 (222.043) 三国志の時代約 100 年間の流れを、人形劇三国志で使用されていた川本喜八郎の人形と共に振り返ることができる。	『三国志名言集』 井波律子著 岩波書店 (923.5) 三国志演義の名言・名セリフを三国志演義の流れ、背景と共に紹介。正史三国志と三国志演義の違いも知ることができる。	『曹操―奸雄に秘められた「時代の変革者」の実像―』 三国志学会監修 山川出版社 (282 ヲ) 曹操の政策、軍事、思想などについて研究者の最新論文 14 本が綴られている。	
『中国の歴史 04 三国志の世界』 礪波護[ほか]編集委員 講談社 (222.043) 三国時代について史実の三国志と物語の違いが説明されている。三国志の理解がより深まる。	『知識ゼロからの三国志入門』 立間祥介著 横山光輝画 幻冬舎 (222.043) 歴史の流れや登場人物を横山光輝のイラストと共に解説されている。著者の小説『三国志』もおすすめ。	『はじめての三国志―時代の変革者・曹操から読みとく』 渡邊義浩著 筑摩書房 (Y222.043) 革新的で先進的だった曹操の生涯をたどりながら、三国志そして古典中国を読み解いていく。	『歴ドル小日向えりの恋する三国志』 小日向えり著 青志社 (923.5) 入門編を探しているイケメン好きの方へ向けて、三国志に登場する 35 名をイラストと印象的なエピソードで紹介されている。	

正史三国志と三国志演義そして、日本人が描いた三国志

『^{せいし}正史三国志』全8巻 陳寿著 裴松之注 今鷹真訳 井波律子訳 筑摩書房（222.043） 裴松之注がある南北朝時代の『正史三国志』の完訳本。魏を正統とした、皇帝の伝記（本紀）と臣下の伝記（列伝）。	『三国志』全8巻 羅貫中著 小川環樹訳 金田純一郎訳 岩波書店（923.5） 毛宗崗本を主底本とし嘉靖本も加えた『三国志演義』の完訳本。軍談調で固く感じる翻訳だが、読み応えはある。蜀漢が正統。	『三国志』全5巻 羅貫中原著 村上知行著 角川書店（923.5） 毛宗崗本『三国志演義』の訳本。わかりやすさ、読みやすさを重視した訳のため比較的読みやすい。	『三国志』全10巻 吉川英治著 1 万年堂出版（F1 ヨシ） 李卓吾本『三国志演義』を底本とした湖南文山著『通俗三国志』がベースの小説。単行本にて大きな活字で刊行。	『三国志』全13巻 北方謙三著 角川春樹事務所（F1 キタ） 『正史三国志』をベースに『三国志演義』もプラスした小説。より個性的で魅力的な登場人物やオリジナル人物が描かれている。	『三国志』全12巻 宮城谷昌光著 文芸春秋（F1 ミヤ） 『正史三国志』をベースとした小説。英雄の負の部分や敗者、後漢の時代についても丁寧に描かれている。外伝と後漢篇もある。
『三国志』 柴田錬三郎著 講談社（F1 シハ） 『吉川三国志』を底本に三国志の名場面を1冊にまとめた小説。しっかりと読みたい方は、『柴田錬三郎選集』10～13 集英社をどうぞ。	『三国志演義』全7巻 羅貫中著 井波律子訳 講談社（923.5） 毛宗崗本『三国志演義』の完訳本。訳者は筑摩書房の『正史三国志』の翻訳も携わる。新しい翻訳で注も豊富。優しい語り口で理解しやすい。	『三国演義』全6巻 安能務著 講談社（F1 アノ） 訳本ではなく、毛宗崗本『三国志演義』をベースとした小説。儒教的な徳や礼を謳うエピソードを独自の解釈で道教的に描く。	『戲史三國志 我が糸は誰を操る』 吉川永青著 講談社（F1 ヨシ） 小役人の陳宮は、参謀としての才能を見込まれ曹操の臣となるが…。他にシリーズは2冊。	『決戦!三國志』 木下昌輝著 天野純希著 吉川永青著 東郷隆著 田中芳樹著 講談社（F1 ケツ） 脇役であった許攸、周瑜、法正、操俱木、劉禅を主人公とした5編の短編集。	『興亡三国志』全5巻 三好徹著 集英社（F1 ミヨ） 『三国志演義』をベースに『正史三国志』もプラスした小説。他の小説に比べて曹操が多く登場し、著者独自の解釈で描かれている。
『サテライト三国志』上下 塚本青史著 日経BP社（F1 ツカ） 三国志に登場する武官、后などの脇役視点で黄巾党の乱から晋勃興までを描く連作短編集。	『曹操』上下 陳舜臣著 中央公論新社（F1 チン） 曹操は何を考え、どう生きようとしていたのか。青年期より一生を追う。続編は魏の五代皇帝までを描いた『曹操残夢』。	『それからの三国志』上下 内田重久著 文芸社（F1 ウチ） 五丈原直後からの物語。蜀を次いた姜維と魏の実権を握った司馬氏の戦いが始まる。解説多数有。	『泣き虫弱虫諸葛孔明』全5巻 酒見賢一著 文芸春秋（F1 サケ） 貧しかった少年が、なぜ三顧の礼を受けるまでになったのか…。講談調で諸葛孔明の生涯を描く。	『秘本三国志』上下 陳舜臣著 毎日新聞社（F1 チン） 『正史三国志』をベースに、五斗米道の教祖で張魯の母である少容を主役とした小説。文芸春秋で出版されていた6冊を大きな活字で刊行。	『^{もうとく}孟徳と^{ほんしよ}本初』 吉川永青著 講談社（F1 ヨシ） 共に戦った仲間であったが、敵同士となった曹操と袁紹。雌雄を決す戦いとなる官渡の戦いまでを描いた物語。